禁転載複製

「中央職業能力開発協会編」

令和８年度 前期 ビジネス・キャリア検定試験

経営戦略分野

３級　経営戦略

試　験　問　題

(12 ページ)

１．試験時間　110 分

２．注意事項

（１） 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。

（２） 表紙に記載されている試験区分名が、申請している試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。

（３） 試験問題は、40題あります。

（４） 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。

（配　　点）問題１～問題40　　各2.5点　　合計100点

（合格基準）試験全体として概ね60%以上の正答。

（５） 関係法令、会計基準、ＪＩＳ等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和８年５月１日時点で施行されている内容に基づくものとします。

（６） マークシートにマークする際には、ＨＢ又はＢの黒鉛筆で、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となることがありますので、きれいに消してください。

（７） 計算等が必要な場合は、問題用紙の余白を使用してください。

（８） 問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを１つだけ選んで間違えないようにマークしてください。

（９） 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。

(10) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。

(11) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。

(12) 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

(13) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。

(14) カンニング行為（他の受験者の答案等を見ること・他の受験者に答えを教えること・他者から答えを教わること・指定されたもの以外のものを机上に置くこと等）、替え玉受験、不正行為と疑われるような紛らわしい態度をとる行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。

(15) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。

禁転載複製

問題１　企業の社会的側面に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．コンプライアンスは、法令遵守のみならず、倫理や道徳も含むことがある。
イ．経営戦略に組み込まれていくべき社会的な要素として、経営者と労働者の関係にフォーカスする人間中心主義がある。
ウ．社会的責任が問われるようになった歴史的背景として、環境問題が挙げられる。
エ．ＣＳＲ活動への評価は、株価に影響することが指摘されている。

問題２　株主主権に基づくコーポレート・ガバナンスと経営戦略に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．コーポレート・ガバナンスはＲＯＥ（Return on Equity）を企業に強く要求するため、経営戦略部門の役割や経営戦略の必要性が明確化されやすい。
イ．コーポレート・ガバナンスは短期的な利益を企業に求める傾向があり、経営戦略本来の役割である長期的なビジョンの策定を阻害する要因になる可能性がある。
ウ．ＰＰＭや財務投資分析は、企業が行う投資の数値的成果と投資効率を求めるものであり、コーポレート・ガバナンスの目的に合致する。
エ．コーポレート・ガバナンスは財務数値に基づいて事業の再構築を行うため、その結果として、技術力やノウハウ等についての企業の組織能力は高まる。

問題３　Ｂ社社長は、高成長・高収益企業を目指して変革を推進するために経営戦略部門を新たに創設し、副社長を同部門の部門長に任命した。部門長から部下への指示として適切なものは、次のうちどれか。

ア．環境変化を冷静に分析・評価し、計画への影響の軽重と影響範囲に判断を加え、どのように経営戦略や経営計画を軌道修正すべきであるか整理すること。
イ．経営戦略の策定においては、戦略を推進していく現場の実行部門にイニシアティブを与えること。
ウ．若手社員を策定メンバーに選出し、戦略シナリオを策定させ、自らは議事進行役として参画するソフトアプローチ法による戦略策定を行うこと。
エ．次世代技術の策定は、研究開発部門の知識と経験が重要となるため、最新技術の調査や策定は彼らに委ねること。

禁転載複製

問題４　経営戦略部門が行うべき業務内容に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．企業変革を目的として、新たな経営戦略策定のために立ち上げた全社プロジェクトに事務局として参画し、主にメンバー間の意見調整や議事進行を担当する。
イ．主要な株主やメインバンクに対して、個別事業や製品ＰＲのための説明会等を積極的に開催し、その企画運営を担当する。
ウ．新たな事業の立上げを目指して社内ベンチャー制度を導入し、その企画から事業化までを担当する。
エ．経営会議などの前には、参加する役員に案件の内容に対する不明点や疑問点がないよう説明を行い、情報や知識の共有を図る。

問題５　経営環境情報の分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．非公式なネットワークを通じて得られた情報は、信頼性の面で十分に留意する必要があり、その情報源がどこか、信頼できる期間や人物か、別ルートで得られた情報と一致するか等、いくつかの観点で検証する必要がある。
イ．外部環境分析の代表的フレームワークであるＰＥＳＴ分析は、政治、経済、社会、技術の４つの視点でマクロ環境を分析する手法である。
ウ．内部環境分析の代表的フレームワークであるＶＲＩＯ分析は、企業活動を製造などの主活動と、人的資源管理などの支援活動に分類して分析する手法である。
エ．財務分析における安全性分析のための指標として、流動比率や当座比率、自己資本比率がある。

問題６　今日の経営環境は、何ら前触れもなく突然に変化する傾向にある。このような状況下において、企業が経営戦略を必要とする理由として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．突然の環境変化による様々なリスクに備え、経営における一層の効率性の向上を図るために必要である。
イ．突然の環境変化に直面した場合、企業内の人々が統一した方向で意思決定するために必要である。
ウ．突然の環境変化に備え、変化を先取りする形で企業行動に一定の方向性を提供するために必要である。
エ．突然の環境変化によって生じた新たな事業の機会及び脅威に気付き、企業の発展の手掛かりとするために必要である。

禁転載複製

問題７　経営環境の不確実性に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．多くの企業がＶＵＣＡ（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）に直面し、対応が求められている。
イ．技術進歩が経営環境の不透明性を高め、それがひいては不確実性の増大へとつながっている。
ウ．環境要因の流動性の高まりは、予測できない環境変化へつながる。
エ．業界の寡占化が進むことにより、経営環境の不確実性はさらに高まっていく。

問題８　経営戦略部門に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．経営戦略部門で扱う情報的経営資源には、形式的情報と意味的情報の２種類があり、中でも後者がより重要なものとなってきている。
イ．経営戦略部門の情報的役割とは、主に現場の情報管理や現場の生の声を編集せずにそのままトップ・マネジメントに伝えることである。
ウ．これまでの経営戦略部門は、トップ・マネジメントに対する定型業務中心の事務局としての役割を果たしてきた。
エ．経営戦略部門には、深い見識や豊富な業務経験が不可欠であり、策定した経営戦略を社内の各事業部門に納得させるだけの権威を持たせる必要がある。

問題９　コトラーの４つの競争ポジションのうち、「ニッチャー」に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

ア．市場全体の需要拡大とシェア防衛を主な戦略とする。
イ．特定の顧客層や分野に集中し、高い専門性で競争する。
ウ．他社の成功事例を模倣し、コスト効率を高める。
エ．リーダーとの競争によって、市場シェアトップの座を狙う。

問題10　ポーターによる３つの基本戦略に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．経験曲線（経験効果）と規模の経済性を追求し、市場占有率を志向する戦略
イ．製品分野、市場分野ともに、全く新しい分野に進出することにより、成長を図ろうとする戦略
ウ．市場を細分化し、特定の顧客層、特定の製品、特定の地域等に経営資源を重点的に配分する戦略
エ．デザイン、サービス等の独自性により、顧客から特異と認められる価値を創造する戦略

禁転載複製

問題11　Ａ社は、複数の事業ａ～ｄを抱えている。現在、経営戦略部門の主導により、それぞれの事業に、どの程度の資源を投入すべきかを計画している。事業ａは、市場成長率は低いが、Ａ社の持つ相対的な市場シェアは高く、安定した事業として確立している。ＰＰＭの考え方に従った場合、この事業ａから上がってくる資源の活用方法に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．事業ａの資源は、「相対的な市場シェアが高く、市場成長率も高い事業ｂ」に投入し、今後の安定的な収益源として育てるべきである。
イ．事業ａの資源は、「相対的な市場シェアが低く、市場成長率も低い事業ｃ」には、投入を避けるべきである。
ウ．事業ａの資源は、「相対的な市場シェアは低いが、市場成長率が高い事業ｄ」に投入し、今後の市場シェアの獲得を狙うべきである。
エ．事業ａの資源は、「相対的な市場シェアは高く、市場成長率が低い事業ａ」に再投入し、更なる市場シェア拡大を追求すべきである。

問題12　経営理念に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．経営理念は、基本的には社会や世界が大きく変動しない限り、長期間変わらないものであり、また変えないものである。
イ．経営理念には、企業目的、経営基本方針、社是、長期経営計画及びドメイン等が含まれる。
ウ．経営理念は、「企業の存在意義及び使命等の対外的に実現したい姿」と「経営姿勢及び行動指針等の組織の基本方向・共通の価値観」について定めたものであり、経営計画や事業計画を策定するためのよりどころとなる。
エ．経営理念は、従業員が日常発生する問題に対処する際の判断や決断に迷いが生じたとき、正しい判断をするためのよりどころとなる。

問題13　戦略的計画に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．戦略的計画では、長期経営計画に基づく経営戦略課題の整理とまとめが行われる。
イ．戦略的計画では、意思決定された経営戦略を実行するための具体的な行動パターンとして示すことが求められる。
ウ．戦略的計画では、全社的な戦略資源の均衡や、ポートフォリオを考慮した目標値を設定することに重点が置かれる。
エ．戦略的計画では、環境要因を予測するだけでなく、積極的に環境に働きかけることも重要である。

禁転載複製

問題14　ビジョンの策定に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

ア．ビジョンは、企業が将来を見通したインプットとして描かれなければならない。
イ．市場からの要請によって求められるビジョンは、具体的施策ではなく抽象的で漠然とした企業の進む方向を示すものである。
ウ．ビジョンは、社員の想像力と創造力をかき立てるものでなければならない。
エ．ビジョンを構成する主要な要素として、①事業領域、②人事制度、③競合関係、④経営理念、⑤資産が挙げられる。

問題15　経営方針に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．経営方針は、経営目標と実績を比較し、そのギャップを埋めるために策定される。
イ．事業構造別方針を決める場合には、既存事業の方向性と新規事業の可能性を検討するが、各事業内の製品や市場の構成については、経営戦略部門ではなく、各事業部に任せる。
ウ．組織文化方針は、従業員教育や意識改革等、経営目標を達成するために必要な要件を満たすことを目的として策定される。
エ．経営方針は、中長期経営方針、事業構造別方針、組織文化方針及び経営機能別方針の４つに大別される。

問題16　経営戦略を策定する上で欠かせない機能別計画に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

ア．マーケティング計画は、利益よりも商圏の拡大等の売上高に重点を置いた計画である。
イ．生産計画は、生産能力計画や生産性計画といった生産力増強・調整計画が中心であるが、得意先からの品質に関するクレーム処理課題の解決対策計画も含まれる。
ウ．仕入・購買計画の策定では、商品や材料の購入時期、品質、購入数、購入予算等が決定されるが、棚卸資産回転期間の目標設定は含まれない。
エ．得意先との取引限度額や信用取引条件の設定、得意先の信用状況の情報等の与信回収計画は、損益計画で設定される。

禁転載複製

問題17　経営計画の構造に関する以下の記述において、（　①　）～（　③　）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものは、次のうちどれか。

経営計画とは、（　①　）をいつ、誰が、どのようにして実行するかを明確にしたものである。この経営計画を策定するには、計画に先駆けて（　②　）が必要となる。さらに、設定された（　②　）と実際の経営の間には多くの隔たりが生じる。それを埋めるために考える戦略的な方策が（　③　）である。

ア．①経営理念　②経営方針　③経営目標
イ．①経営戦略　②経営目標　③企業ビジョン
ウ．①経営戦略　②経営目標　③経営方針
エ．①経営目標　②経営方針　③企業ビジョン

問題18　経営計画に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．経営数値目標の設定において、経営目標の定性的な部分の達成を可能にする数値目標はどの程度か、という定性と定量のバランスをとることが重要である。
イ．経営数値目標の項目として選択するものには、企業のビジョンや経営理念、経営目標を反映することが求められる。
ウ．経営方針のうち、組織文化方針とは、組織として着実に実施すべき組織的課題と内容を、不明確ではなく明確に定めたものである。
エ．経営計画のうち、財務計画は、販売計画、仕入計画及び経費予算が策定される前に策定される。

問題19　アーカーによる戦略代替案の構築や選択の際に考えなければならない基本的な要件に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．仮想的な部分が含まれるとしても、今後起こりうる戦略シナリオを検討することが必要である。
イ．持続可能な競争優位を追求することが必要である。
ウ．組織の特徴や組織メンバーの能力、関係会社とのパートナーシップ等と調和した、現実的な戦略代替案の選択が必要である。
エ．経営戦略における他の事業単位との①キャッシュ・フローの源泉と使途とのバランス、②柔軟性の強化、③経験効果の関係を考慮する必要がある。

禁転載複製

問題20　経営戦略の策定手順として適切なものは、次のうちどれか。

ア．経営環境の分析 → 自社能力の分析 → 戦略代替案の構築 → 経営目標の設定 → 実行計画の立案
イ．経営環境の分析 → 自社能力の分析 → 実行計画の立案 → 経営目標の設定 → 戦略代替案の構築
ウ．経営目標の設定 → 経営環境の分析 → 実行計画の立案 → 自社能力の分析 → 戦略代替案の構築
エ．経営目標の設定 → 経営環境の分析 → 自社能力の分析 → 戦略代替案の構築 → 実行計画の立案

問題21　経営戦略の策定に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

ア．企業を取り巻く経営環境が大きく変化している場合、その環境変化を先取りして「将来の環境」に適合する自社の「将来のあるべき姿」を描く必要がある。
イ．「将来のあるべき姿」を構想する際に、企業として達成したい業績や成果を考慮することは、経営戦略の選択肢を狭めるリスクがあるため避けるべきである。
ウ．経営戦略は、「将来のあるべき姿」を明確に定めた後に経営目標を決めることによって策定される。
エ．現状の中に潜んでいる障壁の多さやしがらみの深さを再認識した上で、常に現状の経営資源を前提として「将来のあるべき姿」を描く必要がある。

問題22　経営戦略の策定プロセスに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．自社の強みと弱みを把握するためには、競合他社と比較することが有用である。
イ．外部分析の目的の１つに、自社を取り巻く環境や自社の事業そのものの不確実性を認識することが挙げられる。
ウ．技術進歩が予測できないほど目まぐるしく変わる現代では、技術の予測は不要である。
エ．経営戦略の策定には、組織文化など定性的な目標も含まれる。

問題23　ビジョンに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．企業のアイデンティティに強く影響される。
イ．組織内外のステークホルダーの満足も含めた設定が求められる。
ウ．企業を構成するメンバーのコミットメントを引き出すことができる。
エ．組織構成員の実際の現場での行動や仕事のあり方を示すものである。

禁転載複製

問題24　経営理念の役割に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．経営理念とは、企業の存在意義や経営姿勢などの経営目標を明確にし、意思決定の判断基準として機能するものである。
イ．経営理念が存在することにより、組織構成員間のコミュニケーションが容易になる。
ウ．経営理念は、環境変化に応じて柔軟に変更されるべきであり、戦略や戦術と同様に頻繁に見直すことが望ましい。
エ．経営理念は、企業使命を対外的に示すものであり、ステークホルダーとの信頼関係の構築に寄与する。

問題25　製品ライフサイクル分析に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

ア．製品ライフサイクルの導入期にある製品は、他の段階にある製品に比べ、大きな利益をもたらす。
イ．製品の改良の余地がなくなったら、その製品は成熟期に達したといえる。
ウ．製品ライフサイクルの衰退期に達した製品は、撤退するしかない。
エ．製品ライフサイクル分析の適用が有効ではない製品がある。

問題26　経営環境の分析に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

ア．技術、政府規制、経済、文化、人口動態等を対象に行う分析を、マクロ環境分析という。
イ．３Ｃ分析のうち、「自社分析」と「市場分析」は内部分析に、「競合分析」は外部分析に相当する。
ウ．ＰＥＳＴ分析とは、企業を取り巻くミクロな外部環境を分析するための手法である。
エ．ＳＷＯＴ分析における機会とは、企業の内部環境から導き出されるものである。

問題27　経営環境の分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．経営環境分析のステップは、環境要因の選定、情報収集、環境要因の変化予測、機会・脅威の抽出、重要経営課題の創出の順に進められる。
イ．環境要因の選定では、１つの環境要因分析を行うことで新たな環境要因分析につながり、より深みのある示唆を得ることができる。
ウ．情報収集・分析は、調査項目一覧表の作成、情報源リストの作成、調査計画表の作成の手順により行うのが一般的である。
エ．環境要因の変化予測には、数量的な予測技法及び質的な予測技法があり、正確な予測よりはトレンドをつかむことが重視される。

禁転載複製

問題28　顧客分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．市場細分化は、地理的特性や人口統計学的基準、ライフスタイルや社会階層、行動変数などを用いて顧客を分類し、各セグメントの特定の共通ニーズを浮かび上がらせようとする。
イ．有効な市場細分化を行うことで、商品・サービスの差別化及び顧客満足度の向上が可能となるが、市場を細分化するには詳細なデータ収集と分析が必要であり、相応の時間とコストが必要となる。
ウ．未充足ニーズは、顧客の要求が明確で測定可能であるほど特定しやすいため、主として定量調査によって把握される。
エ．未充足ニーズには、顧客が明確に認識しているニーズだけでなく、潜在的で言語化されていないニーズも含まれる。

問題29　食品業界において２番手のＩ社に原材料の偽装問題が発覚した。業界トップのＨ社が採る対応策に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．特別な対応は行わずに静観する。
イ．Ｈ社にも偽装の兆しがないか総点検する。
ウ．Ｈ社の販売量が増えることも見込んで、増産体制を検討する。
エ．他社の動きを見ながら、Ｉ社の買収も視野に入れる。

問題30　競合分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．業界構造を分析する際には、新規参入業者、競争業者、既存製品、供給業者及び買い手の５つの要因を分析する。
イ．ＫＳＦ（Key Success Factor）とは、業界内での競争に勝ち、企業が成長していく上で必要とされる経営資源のことである。
ウ．競合分析で重要となるのは、成功要因や業界の競争構造、コスト構造、業界トレンドといった競合とそれを含む業界全体の構造把握である。
エ．参入障壁は、主に規模の経済性やチャネルに関する参入投資の大きさによって決まる。

問題31　自社能力の分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．リピート購入率は、ブランドロイヤリティを定量的に測定するための指標の１つとなりうる。
イ．顧客満足度は量的な把握が可能であることから、アンケート等により得られたデータを分析し、顧客満足度の向上を図ることが望ましい。
ウ．マーケットシェアを指標として利用する場合には、短期的な広告活動等の影響を十分に考慮して活用することが望ましい。
エ．製品やサービスが顧客の潜在的ニーズに応えられているか否かは、売上の推移を中心に判断することが望ましい。

禁転載複製

問題32　業界構造を決める５つの要因のうち、「買い手の交渉力」が強くなりやすい要因として適切なものは、次のうちどれか。

ア．供給者が寡占である。
イ．顧客が別の商品に切り替える際、多額のコストが生じる。
ウ．売り手であるＡ社の売上シェアの多くの部分を、買い手であるＢ社が占めている。
エ．製品力が強く差別化されている。

問題33　市場浸透戦略、製品開発戦略、市場開発戦略及び多角化戦略に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

ア．市場浸透戦略には、現在の顧客に対して売上高を伸ばしていく方法と、「お友達紹介キャンペーン」のように、現在の顧客層において、新しい顧客を見つける方法がある。
イ．製品開発戦略は、生産技術よりも、マーケティング力に強みを持つ企業において有効な戦略である。
ウ．市場開発戦略の例として、ビールメーカーがバイオ技術を応用して、花の製造・販売事業（フラワービジネス）へ進出する例が挙げられる。
エ．従来、店舗販売ルートのみでパソコンを販売していた企業が、インターネット販売チャネルも採用して、売上を拡大しようとする戦略は、多角化戦略に該当する。

問題34　差別化が有効な戦略となる状況として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．製品が物理的機能を提供するだけでなく、むしろ消費者の心理的なニーズ・ウォンツに応えなければならない状況
イ．製品が複雑で多くの属性を持ち、消費者の評価が分かれる状況
ウ．ブランド・イメージや販売方法などによって、商品の違いを訴求できる状況
エ．製品需要の価格弾力性が大きく、消費者が価格に敏感に反応する状況

問題35　経営資源と機会・脅威との競合に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

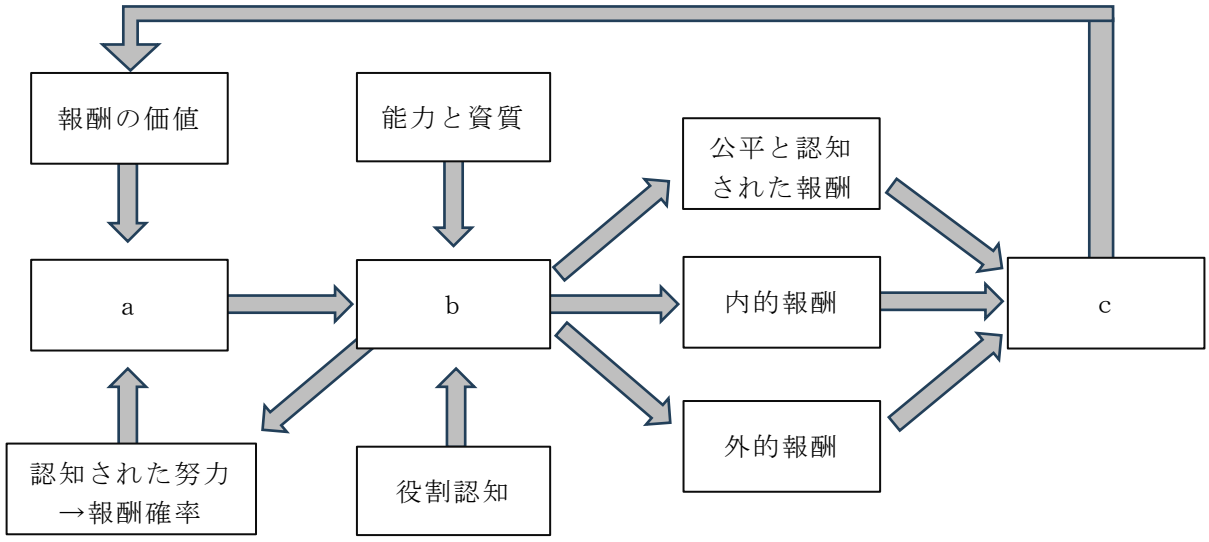
ア．製品開発戦略は、製品特徴の追加、製品ラインの拡張、新世代製品の開発、既存市場に向けた異質な新規製品の４つに分けることができ、成長方向を志向することで既存製品部門とのシナジーが発揮されることが期待できる。
イ．非関連多角化においては、資本の効率性を高め、不採算部門の相互補助の利点を活用することが相対的に容易である。
ウ．関連多角化では、会社の収益の変動が大きくなり、単純なポートフォリオの分散化よりも大きな収益の流れを確保しうる。
エ．市場浸透戦略において企業の採るべき主要な方策としては、マーケットシェアの拡大、需要規模の拡大の２つが考えられる。

禁転載複製

問題36　組織マネジメントに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．組織においてコンフリクトは不可避ではあるが、上手く管理されている限り組織にとっては有用であり、その正の側面を管理者は組織戦略に有効活用すべきである。
イ．リカートは、集団の連結を連結ピンという概念で明らかにし、管理者の重要な役割は集団を結びつけるコミュニケーション・センターの役割であると述べている。
ウ．マズローの欲求階層説は、マクレガーのＸ理論とＹ理論の仮説によって、経営管理への適用が可能となった。
エ．個人の動機づけ理論のうち内容理論について、主要な理論には期待理論や公平理論、反応強化理論がある。

問題37　下図において、個人の動機づけ理論のうち、ポーター＆ローラーの期待理論モデルに係るａからｃに当てはまる用語の組合せとして適切なものは、次のうちどれか。



ア．ａ：満足　　ｂ：努力　　ｃ：成果
イ．ａ：努力　　ｂ：成果　　ｃ：満足
ウ．ａ：満足　　ｂ：成果　　ｃ：努力
エ．ａ：努力　　ｂ：満足　　ｃ：成果

禁転載複製

問題38　会計・財務に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

ア．貸借対照表は、企業の財政状態（＝ストック）を表し、毎期、各勘定科目の残高は累積していく。一方、損益計算書は、企業の経営成績（＝フロー）を示し、会計期間が終わり翌期首になると、各勘定科目の残高はゼロとなる。
イ．貸借対照表は、会社がお金をどのように調達し、どのような資産で運用しているかを示している。お金の調達結果は、貸借対照表の借方に表示されており、お金の運用の結果（＝得られた資産）は、貸借対照表の貸方に示されている。
ウ．相対的に、貸借対照表及び損益計算書は会計上の操作が入りづらく、キャッシュ・フロー計算書はそれが入りやすい。
エ．株主資本等変動計算書は、貸借対照表の総資産の部の期首から期末までの変動状況を示す変動計算書である。

問題39　企業価値最大化及び戦略投資に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．ＲＯＥは、株主資本に対する利益の効率性を示す指標であり、企業価値最大化の重要な指標の１つとして用いられる。
イ．ＲＯＥに焦点を当てた経営では、ユニークな付加価値創出のために、経営戦略や組織マネジメントにおいても創意工夫を凝らし、他の企業との差別化を図る必要がある。
ウ．従業員に対する教育投資といった戦略投資は、企業の長期的な成長・存続を目的とするため、投資回収までに一定期間を要することが多い。
エ．ＲＯＥの向上を図るためには、投資効率の観点から、短期的に収益性の低い投資の実行は慎重に検討する必要がある。

問題40　マーケティングに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

ア．自社の製品やサービスに適合する顧客を探索することである。
イ．価格決定において重要となるのは、いかに低価格で顧客に提供するかである。
ウ．今後はなるべく多くの顧客に認知してもらうためのマス・マーケティングが重要となる。
エ．機能別戦略の１つといえる。